

第25回例会報告

— 講演 —

ひらけ、INNOVATION!

第25回例会では、国立大学法人電気通信大学長 福田 喬 氏に「ひらけ、INNOVATION!」と題し、電気通信大学の概要をはじめ100年の節目を迎えるにあたってお話をいただきました。

講演内容

電気通信大学は、学部が1、研究科が1、研究センターが10、専任教員は300名強、学生数は5,000名弱と、比較的小さい規模の組織といえます。しかしながら、ほぼ工学系の単科大学で、工学系ということで見ると、日本の国立大学の中では上位7~8番目に入る規模を誇っています。

本学の教育体制で、特に企業の方がご興味を抱いておられるであろうインターンシップについてですが、本学では実践教育科目として、学部では3年生、大学院では1年生の時にインターンシップを受講できます。原則国内では90時間(3週間程度)以上、海外の場合は1ヵ月以上の就業体験を条件として、その成果を収めた時のみ単位が与えられます。学生履修数は6%強、受け入れ表明をいただいた企業は全体で100以上あり、その企業と学生の希望とのマッチングを大学のインターンシップ推進室の特任教員が行っています。

大学院では、外部機関から派遣された客員教員に教育・指導をお願いするなど、産学連携教育に力を入れています。特に「スーパー連携大学院コンソーシアム」では、アカademックな分野だけでなく、産業界や企業や社会で活躍できるような、専門知識をもちながらも視野が広く応用力のある「イノベーション博士」の養成を目指しています。



企業様には、人材育成にあたり重要となる共同研究テーマの提供や、このプログラムの受講生の採用をお願いしたいと思っています。このコンソーシアムに入会することで、技術相談や受講生の採用についての相談、人材交流といったメリットもあります。ぜひ事業発展のためにお役立ていただきたいと思います。

電気通信大学は1918年に設立され、2018年はちょうど創立100周年にあたります。その一事業として新キャンパス建設があり、その中に「UECアライアンスセンター」という共同研究施設を置きました。現在29社の企業、本学の研究センターが3つ、本学のベンチャー企業も3社入って、産学連携活動を始めています。参加企業の技術分野は「ロボット制御」「データ分析」など多岐に渡ります。学生も含め、企業と他研究施設の技術者、研究者との「協同・共創の場」となることを目指しています。

「地域」という観点からは、現在、東京農工大、東京外語大と連携・協同して、西東京三大学による国際学究都市構想を進めています。電通大のある調布市、農工大と外語大のある府中市の周辺には、日立中研、東芝、JAXA、NTT物性基礎研など研究機関や大企業が揃っています。3大学を中心に、この地域に学究都市を作っていきたいというのが狙いです。

この試みの背景には、社会に目を開かせるような取り組みが欲しいという想いがありました。理工系の単科大学ではどうしても社会に対する目が偏ってしまいがちで、しかし、社会の動向を捉え、どういう課題がターゲットになりうるかという大きな視点がないと、社会への理工系の寄与は生まれません。広い視野をもち、新しい価値観を生み出すような「文理共同型のグローバル人材」育成を目指しています。

電通大は、さまざまな取り組みによって社会に役立つ総合的な人材育成を進めていきたいと考えています。みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

講師 プロフィール Lecturer Profile

福田 喬 氏 [国立大学法人電気通信大学長]

1945年満州国生まれ、福井県出身。1970年京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻・修士課程終了。同年、電気通信大学電気通信学部助手に就任。1999年電気通信大学電気通信学部 教授に就任。2014年から現職。